

家庭教育通信

10歳からの子育て
～思春期の入口に立つわが子～ 9

第57号 平成29年9月11日発行

「ゲーム」から出られない

ICT化が進み、ゲーム機が小型化し、コンテンツやアプリも多様な中、電車や公園などで夢中になっている人を見かけることがあります。こどもたちの中ではブロックで建物などを自分流に作っていくゲームが人気です。自分なりの目的をもたないと面白さが半減するほど自由度がとても高いと聞きました。他のプレイヤーとともに何かを作り出したり、冒険することができ、コミュニケーションに役立つという意見もあります。

しかし、一部の保護者から「宿題もせず、お風呂やごはんもそっちのけで没頭し、夜も遅くまでしている」と相談があります。「ゲーム脳」という言葉もあり「ゲームはこどもの脳の発達に悪い影響を及ぼすのでは…」という不安が広がっていることは事実です。

問題は悪循環が生じること

ある研究データで「ゲームをする時間が60分までなら良い影響がある、3時間を越えると良くない影響が出る」というものがありました。それなら2時間59分まで許そうか…という訳にはいきません。ゲームをすること自体が悪いのではなく、夜遅くまでおきていることで朝起きられない→ご飯を食べずに登校→授業に集中できない→成績が低下→意欲が低下→ゲームに逃避、という悪循環が生じることが問題なのです。

このようなときには・・・

〔自分の時間をコーディネートする力を身に付けさせる〕

宿題をやらない、お風呂にも入らないとならないよう、こどもと相談して段取りを決めましょう。守らなければペナルティーが科せられても仕方ないという約束もしたいものです。

〔ゲームの世界よりもっと楽しい体験をさせる〕

ゲームの中の世界を上回る実際の体験の面白さ、ワクワク感を伝えましょう。コントローラーから両手で開放すれば現実の自分に戻ります。自分の目で見て触れて、言葉を伝え、人とふれ合うことから学ぶことは大切です。目の前に広がる自然は心と体を育てます。人から学んだ技術や知識は血肉化しましょう。

何事も極端に走らず、バランス感覚をもって生活できるよう、粘り強く励まし続けたいものです。

庶務課社会教育担当

TEL (3647) 9676